



Schedule 今月の開館スケジュール

日	月	火	水	木	金	土											
1	×	2	3	4	5	6	7	×									
		←	○	1/21 ~ 3/15													
8	×	9	10	11	×	12	13	14	×								
		●	●	1/21 ~ 3/15													
15	×	16	17	18	19	20	21	22	23	×	24	25	26	27	×	28	×
				●	●	1/21 ~ 3/15											
				●	●	1/21 ~ 3/15											

施設見学 9:00 ~ 16:00
 土曜日は天体観望会実施日のみ 14:30 ~ 20:00

天体観望会 18:00 ~ 20:00
 (定員あり / 要予約)

休館日

月の形 (満月・新月・半月および観望会実施日)

事務室閉室日
 (問い合わせ等対応不可)

施設見学

1階展示フロアでは常設展示、また、3階では荒木望遠鏡 (国内私立大学最大口径の反射式望遠鏡) の見学が可能です。

天体観望会

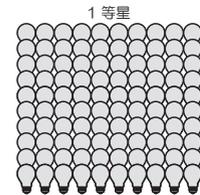
荒木望遠鏡や小型望遠鏡で天体を観察することができ、天文台専門スタッフが望遠鏡や天体について解説を行います。1月~3月上旬は厳冬期のため、天体観望会は休止しています。

よくある質問?

観望会などでよく聞かれる質問にお答えします★

1等星や5等星…等級ってなに?

星の明るさを表す単位です。2000年よりも昔に、古代ギリシャの天文学者ヒッパルコスが、夜空でもっとも明るく見える星を1等星、次に明るい星を2等星…と順番に決めていきました。目で見えるいちばん暗い星が6等星です。今では、1等星と6等星の明るさの違いは100倍と決められています。



星の数はどのくらいあるの?

私たちの太陽系がある「天の川銀河」には、約2000億個の星があります。さらに、宇宙には天の川銀河のような星の集まりが1000億個以上もあると考えられています。2000億 × 1000億 = … 計算してみてくださいね。実際に肉眼で確認できる星は、だいたい6等星までで、その数は全天で約8600個です。しかし、街明かりなどの環境で見える星の数が減ってしまうこともあります。みなさんのお家のまわりでは何個の星が見えますか?

星座の中で、一番明るい星は?

地球から見たとき、星座をつくる星の中で一番明るい星は、おおいぬ座の「シリウス」です。シリウスは全部で21個ある一等星の中で、-1.4等ともっとも明るく見える星です。しかし、惑星の木星や金星はシリウスよりも明るく見えることがあります。西の空にある木星(-2.3等)と明るさ比べをしてみてくださいね。

研究に必要!

荒木望遠鏡には装置がたくさんついているね

これらの装置は全て研究で使用されています!

装置を使って得たデータをもとに研究を進めているんだ。

装置自体の開発も行っていて、研究者や学生が日々研究を重ねているよ!

宇宙にはまだまだナゾがたくさん。だからこそ魅力的なのかもしれないね。

神山天文台サポートチームが活躍!
学内外イベントのご案内

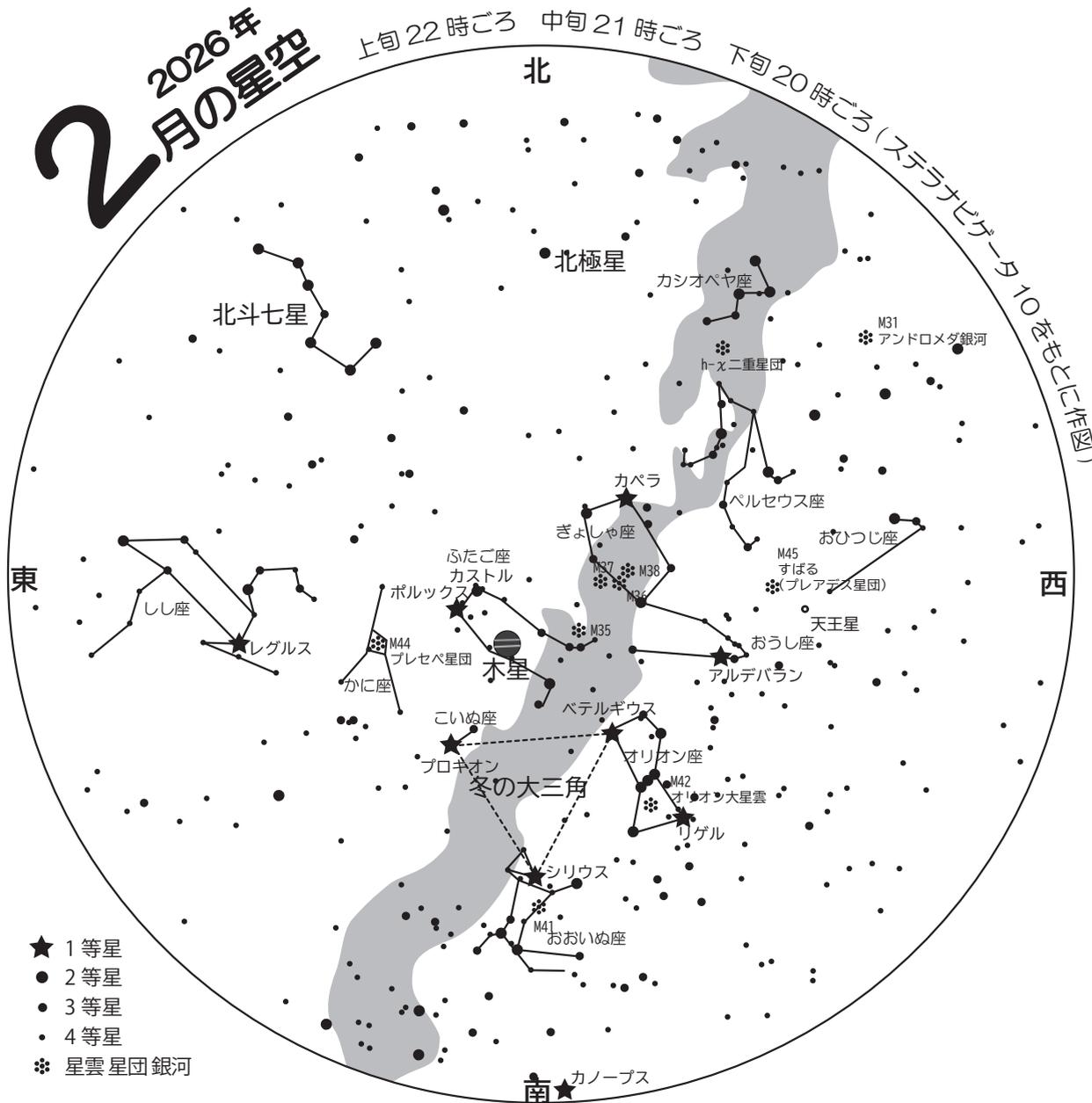
とても寒い1月~3月上旬は、神山天文台での天体観望会はお休みしていますが、神山天文台サポートチーム (通称神サポ) が小中学生向けの体験イベントを実施します。ぜひご参加ください! (詳しくはHPを参照ください)



天文イベント
 「星を探しに in 神山天文台」
 日時: 2月21日 (土) 昼の部 13:00 ~ 夜の部 18:00 ~
 対象: 小中学生 (高校生も可) とその保護者
 各部 30名 × 3グループ
 参加費無料・要予約
 (すでにキャンセル待ちの場合もございます)

2026年2月 見ごろの天体

2026年2月の星空



- ★ 1等星
- 2等星
- 3等星
- 4等星
- ※ 星雲 星団 銀河

見えるかな？カノープス

冬のにぎやかな星たちとともに、南の空、地平線ぎりぎりのカノープスに注目してみましょう！地球大気の影響を強く受けるため、暗く赤っぽく見えますが、実際はこいぬ座のプロキオンのような白く輝く星、しかもおおいぬ座のシリウスに次いで2番目に明るい星です。カノープスは、日本の本州付近では南の低空にしか見えず、地平線上にある時間が短いので、南中する（真南に来て地平線から最も離れる）時刻の前後約30分ほどが観察チャンスになります。古代中国では「南極老人（七福神の寿老人や福祿寿の元）星」「寿星」と呼んで「一目でも見ると長生きができる」と言い伝えられています。

★木星（もくせい）：Jupiter

木星は東～南の空に圧倒的な輝きで目立っています。木星は太陽系最大の惑星で直径は地球の約11倍もあります。望遠鏡を使うと、縞模様と周りをまわる衛星のうち数個を見ることができます。縞模様の正体は、大気中に含まれるアンモニアやメタンでできた雲の模様です。木星の特徴的な模様は大赤斑があります。大赤斑は周囲に比べ温度が低いことから高気圧性の嵐と考えられており、その大きさは地球のおよそ2-3倍もあります。

★火星（かせい）：Mars

太陽系の惑星で地球の1つ外側を公転する火星は、地球の1/2程度の小さな惑星です。2年2か月ごとの接近のタイミング（2025年は1月12日最接近）で観察の好機を迎えています。望遠鏡を使うと、ドライアイスの氷である「極冠（きょっかん）」や大チルシスなどの模様も見ることができますが、見え方は火星の季節や天気（ダストストームなどでぼやけてしまう可能性もあります）にも大きく影響されます。

★赤色巨星（せきしよくきよせい）：Red giant

恒星は安定して輝く時期が長く続きますが、恒星の内部の水素を使い果たすと恒星の内部が縮み始め、その際に発生する熱によって外側のガスはさらに外へと膨張し、巨大な星になります。ガスが膨れると表面の温度が低くなるため、赤色に見えます。太陽の約20倍です。オリオン座のベテルギウスは赤色超巨星で、直径は太陽の約650倍も大きいことが観測されています。恒星の寿命が尽きようとしていて、いつ超新星爆発を起こしてもおかしくありません。

★散開星団（さんかいせいだん）：Open cluster

おうし座のすばる（プレアデス星団・M45）、ぎょしゃ座のM36、M37、M38が見ごろです。少しずつ集まり方の異なるぎょしゃ座の3つの星団も比べてみましょう。恒星は、ガスの濃いところで集団で生まれ、すばるのような、若い星たちが集まった散開星団となります。やがて、散開星団の星たちは、時間が経つと少しずつ離れていくと考えられています。